

令和元年10月31日

阿賀野市議会議長 風間輝榮様

産業建設常任委員長 浅間信一

## 所管事務調査報告書

本委員会は、令和元年第3回議会定例会において議決を経た、閉会中の所管事務調査を下記のとおり行ったので、会議規則第110条の規定により報告します。

### 記

#### ○先進地視察研修

- 1 研修期日 令和元年10月15日（火）
- 2 研修場所 福島県国見町・栃木県益子町
- 3 研修事項 道の駅の運営について
- 4 研修結果

**福島県国見町 道の駅国見あつかしの郷**

国見町は福島県中通りの最北端に位置し、北は宮城県白石市と接する町で、人口は約1万人のコシヒカリと桃が盛んな農業を主産業とており、古くから奥州街道の要衝と交通の便にも恵まれた町です。

#### 【建設経過】

平成23年に発生した東日本大震災と原発事故からの復興のシンボルとし、交流の拠点・情報発信と防災の基地をコンセプトに、平成26年3月に道の駅基本設計を完了し、3年かけ平成29年4月竣工、同5月3日にグランドオープンしました。

#### 【施設概要と工事費】

敷地面積 26,009.62 m<sup>2</sup>

造成～外装工事費 21億055万円 ※その他工事費あり

(国直轄工事：非常用電源、駐車場、外灯、道路情報施設内装等)

### 【運営形態】

道の駅を町活性化の拠点と位置づけ、行政とともにまちづくり政策を推進する組織として、町 100%出資 9,800 万円による第三セクターを新設し、道の駅の指定管理者としており、施設全体を一元管理し、町の政策を取り入れられるようテナント方式は採用していない。すべての施設を直営にし施設全体の効率的な運用と事業効果の発揮をあげている。独立採算を前提とし民間の発想を持った収益事業を行い効率的な運営を目指しています。

(代表取締役は国見町長：町からの指定管理料 2500 万円)

指定管理者は、公募で行われ、神奈川県出身の飲食業の経営をしていた男性で第三セクター立ち上げまでは、町の任期期限付き職員として準備に携わり、道の駅の運営を基礎から作り上げた成功の仕掛人です。道の駅出荷組合の設立と専門部会の立ち上げ、外部の有識者、コンサルタント、金融機関、飲食業、地元商工会、町内会が関わった検討委員会や収益、公益を一緒に行い工夫し、6次化商品開発に力を入れています。

### 【来場者数】

開業から令和元年 9 月末の累計で 4,206,606 人・1 日当たり 4,780 人。

来場者の地域別として福島県内 45%・宮城県の方 41%で国見町は宮城県との県境に位置するので両県からの来場者がほとんどです。

### 【経営の状況】

道の駅をつくるうえで、国見町農産物・果樹が中心なので出荷組合を設立した。組合員数としては、町内の方が 200 軒弱、町外の方が 300 軒、計 500 軒の加入となっている。平成 30 年度の売上額は、8 億 424 万円、主に直売のくみに市場の売り上げが 7 割を占めています。

また、コンビニ（指定管理者がフランチャイズに加盟し、24 時間営業・宿泊施設部分のフロント受付窓口でもある）についても第二の売上げです。

また飲食コーナーについては、儲けが少ないが、地元野菜を使用し農家が潤う仕組みにしています。平成 29 年度のオープン時には、人員・備品などの初期投資額が非常に多く経営は赤字で現場も苦しかったが、次年度は人員整理等事業見直しを行い三年目によりやく安定経営となってきました。桃が特産品で 7 月、8 月の売上げが最盛期で、1 月、2 月については売上げが半減することと対策を検討中とのことでした。

### 【その他】

お客様に飽きられないように、イベント等を随時開催しています。地域への還元として、中学生以下の子どもたちに、特産フルーツのジェラート無料チケ

ットの配布、地元野菜の詰め放題、ビアガーデン、ウエディング披露宴、イルミネーションなど。また、直売所の野菜などは、9割が国見町産で他市からの仕入れは1割にとどめているようです。商工会青年分が商品化したご当地グルメ「国見(鯖みそ)バーガー」がご当地グルメグランプリで優勝しています。

### 栃木県益子町 道の駅ましこ

益子町は、東京から車で約2時間栃木県の南東部に位置しており、町の中心部から少し足を延ばせば里山風景が広がり、1年を通して果物や、野菜が豊富です。また、益子焼の産地として有名で、年二回の陶器市(15日間)で80万人を超える観光客が訪れる観光の町です。ただし、交通の便が良くなく高速道路とのアクセスが悪く今後の課題であるとのことでした。

#### 【建設経過】

当初「農と食を産業とする」をテーマに進められた。

平成10年度に町の地域活性化計画を策定。

平成21年度から道の駅構想調査の実施(地域の方、JAを含め決起集会)。

平成22年度検討委員会を設置し、委員と駅のイメージ統一のため2年をかけた。

平成23年度ましこ道の駅交流施設基本構想検討報告書の作成

平成24年度ましこ道の駅建設委員会の設置・基本計画書の作成

平成25年度公募型プロポザールによる基本設計業者の選定。

平成26年度道の駅実証店舗「ましこマルシェ」開設(厚労省の事業;開駅まで生産者とのつながりや運営ノウハウと経験を積みアピールもできた)。

事業の認定(土地収用法の適用)・事業用地の取得。

※建設予定地が優良農地だったため、条件整理をするなかで整備を進めてきた。

平成27年度第三セクター株式会社設立準備、株式会社ましこカンパニー設立。指定管理者の指定。

平成28年度加工施設の稼働開始し、保存が長期で簡単にできるドレッシング類を30~40品目、農家の方が考えて商品化させた。

平成28年10月12・13日 道の駅ましこプレオープン

平成28年10月15日 グランドオープン。令和元年10月で4年目に入る。

現在、第2期加工場を令和2年7月供用に向け工事発注予定で、建物と設備を含めると1億円を超えるが、十分費用回収はできるよう試算は行っているとのことでした。

道の駅担当者である、農政課係長が構想からオープンまで約7年をかけ関係者等の協力のもと創り上げた事業です。施設の方は山をイメージしたデザインで地場産材を数年前から用意した木材を使い、焼き物に使う陶土を活用している。益子が目指す道の駅は、農と商を産業にしているという大きなテーマがあり、いまは、テーマに行きついているが、当初は議員、各地域の住民、関係団体とかなりの時間を掛けて議論しながら計画を進めてきた。

#### 【施設概要と工事費】

総面積 21,843 m<sup>2</sup>

工事費 13億7000万円（内、国・県の交付金・負担金4億9000万円）

※当初、道の駅の屋根に安田瓦を使いたいと検討してきたが予算関係で実現できなかった経緯があるとのことでした。

#### 【運営形態】

指定管理者が施設全体を運営していますが、道の駅インフォメーションカウンターにて「移住サポートセンター」の窓口を設け、町の企画課職員1名が神田支配人と一緒に移住サポートにあたっており、併せて「空き家物件の紹介」「就職・企業支援の情報提供」「住まいづくり奨励金の申請受付」「子育て支援情報の提供」なども行っていて、益子町に住む人を増やすことも目的のひとつとしています。

実際、移住された方がこの一年間で約10数件ですが、土、日も開設されているので買い物や休憩のために訪れた人が気軽に立ち寄りできる窓口であり相談者は多いとのこと。

町83.3%出資（5,000万円）、その他金融機関4行（JA含む）と、栃木県内の類似施設である道の駅うつのみやろまんちっく村の運営者で、（株）ファーマーズ・フォレストという地域商社1社（各200万円の出資、合計1,000万円）で第三セクターを設立し、道の駅の指定管理者としている。独立採算を前提とし民間の発想を持った収益事業を行い効率的な運営を目指しているという点では、福島県国見町と同じでした。代表取締役は益子町長、町からの指定管理料は1,815万円です。指定管理者は、公募で決定し、富山県から益子町の魅力に惹かれ10年前に移住し、益子町にペンを経営者されている方でした。

#### 【来場者数】

平成28年10月から令和元年6月末の累計200万人達成し、今後も誘客のため地域限定旅行業の運営と、宿泊施設の経営も新たに始める計画でした。

※宿泊業の指定管理者も、道の駅と同じ方です。

道の駅の来客層を30代の女性をターゲットとして、施設内の商品開発や商品陳列、カフェやレストランのメニューが考えられていて、実際の客層も休日はそのような客層が多いようです。

【経営の状況】（平成30年度決算）

総資産1億7800万円（資本金6千万円）、自己資産比率約58%、純売上高6億2,300万円、当期純利益1,394万円の黒字でした。

【その他】

観光戦略（DMO）企画業務に今年度400万円を予算計上しており、益子町に人が集まる様々な仕掛けに取り組んでいるようです。益子町はテナント方式非採用とし、町が主導とし事業を進めていくとのことでした。

国見町も益子町もそれぞれ、地域活性化や道の駅の運営安定のために、町と指定管理者や地域の様々な関係者との繋がりを大切に、また関係性を保つために日々努力し続けて成功に至っているものと感じました。そして、地域を愛し、また衰退させないために、まず地域の人材育成が大切なのだと仰っていました。

○所管事務調査

- 1 調査事項 道の駅整備計画に関する活動状況について
- 2 調査期日 令和元年10月31日（木） 午前9時30分
- 3 調査経過

令和元年10月31日、逢坂産業建設部長、石原政策監、田邊農林課長、相馬商工観光課長並びに担当職員の出席を求めて本委員会を開催し、調査事項について道の駅建設予定地の現地調査及び担当課長から説明を受け、質疑、意見集約を行いました。

4 調査結果

現在、建設予定地とその周辺では、土台となる盛り土の仮置き、敷均、積み重ねを行っています。盛り土量については約60,000立米を盛り土する予定です。土砂は阿賀浦橋の下の、掘削している現場から搬入しており、今年度中には計画量の搬入を完了する予定で進めています。約60,000立米の盛り土は、道の駅には国の施設部分と市の施設部分がある中で、市が建設する部分の盛り土となり、市の持ち出し分となります。

盛り土は、8.4メートルの高さを計画しています。建設予定地の地盤調査等を行い、基本的に20センチメートルから30センチメートルの沈下が

予想される結果が出ておりますが、その沈下分を考慮して、60,000立米に余盛りを行いますので、道の駅の防災機能について要を満たす高さは確保できる計画です。

指定管理者に手を挙げられる資格としては、基本的に、他の道の駅の公募条件等を調査して、それに準じた形で公募条件を検討しており、ガイドラインやほかの事例を含めると、任意団体でも十分指定管理者になることができます。

建物に安田瓦を使うかについては、まだ基本設計段階であり 詳細に、何の資材を使うまでは詰めていないところではあるが、阿賀野市の入り口に当たる道の駅にある程度の面積の瓦の並みがあるのとないのとでは違うので、是非安田瓦を使ってもらいたいと思います。

今後も、阿賀野市道の駅整備計画の進捗について、継続して調査を行ってまいります。

以上、産業建設常任委員会の所管事務調査の委員会報告といたします。